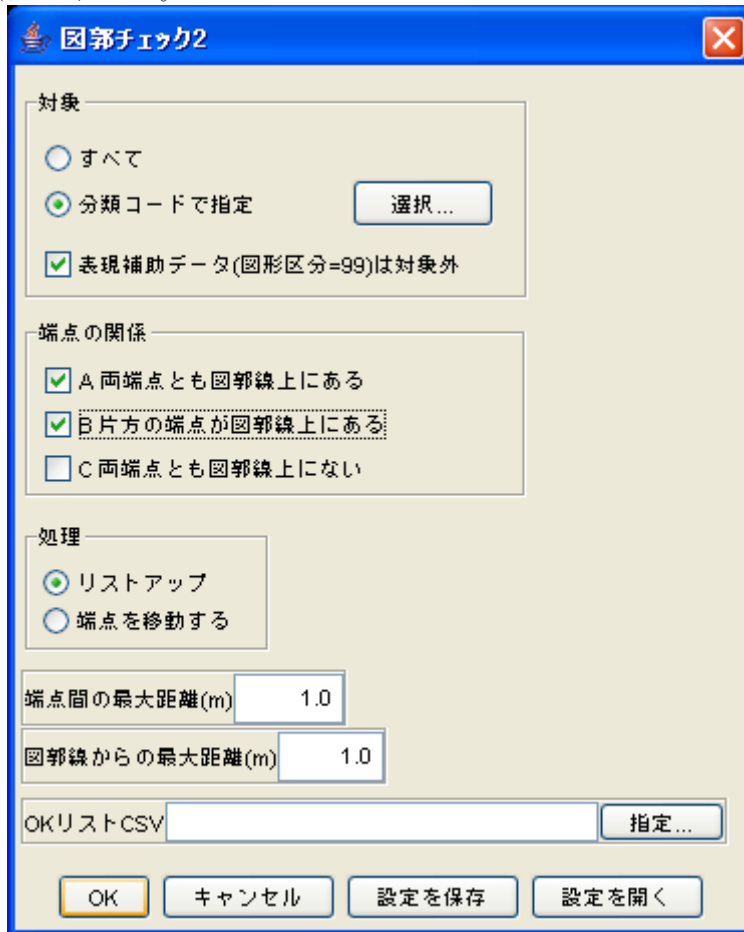


1. 図郭チェック 2

新メニュー[チェック]-[図郭チェック 2]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

本来、図郭線上で接するべき線 (E5) が接していないケースを検出します。隣接する複数の DM を開いた状態で、このメニューを起動してください。

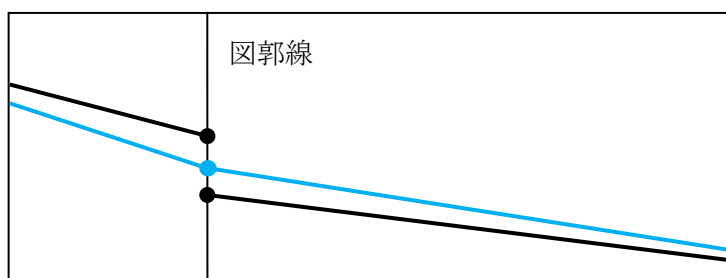


対象

チェック対象となる分類コードを指定します。分類コード別に検査します。

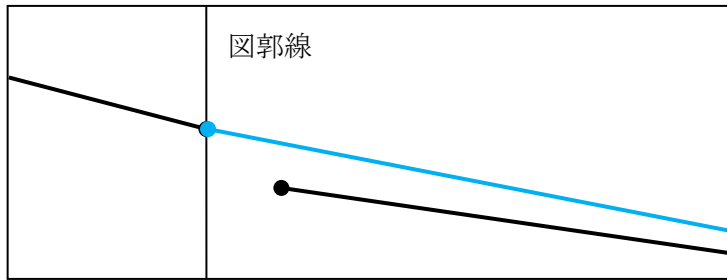
A 両端点とも図郭線上にある

隣接する図郭の線要素の端点が両方とも図郭線上にあり、同じ座標ではないケースを検出します。接続する場合は、両方の端点の中心に、両方の端点を移動します。下図で、黒色は変更前、水色は変更後です。



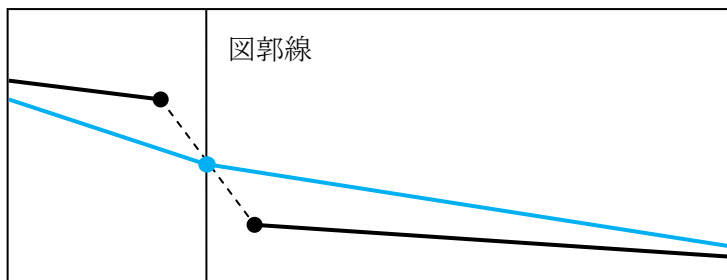
B 片側の端点が図郭線上にある

隣接する図郭の線要素の端点のひとつが図郭線上にあり、もう一つが図郭線の近くあるケースを検出します。接続する場合は、図郭線上にない端点を移動します。



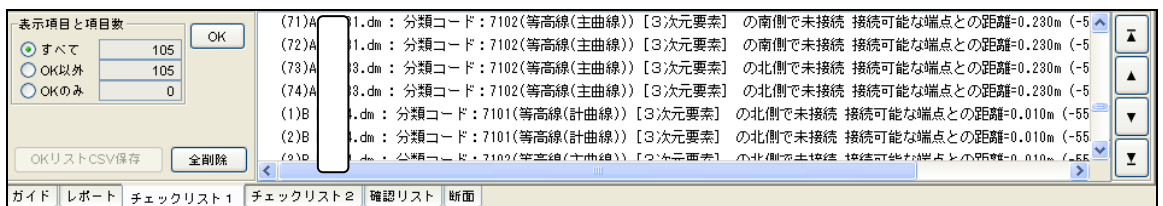
C 両端点とも図郭線上にない

隣接する図郭の線要素の端点が両方とも図郭線上にないケースを検出します。接続する場合は、両端点を結ぶ線と図郭線の交点へ、両方の端点を移動します



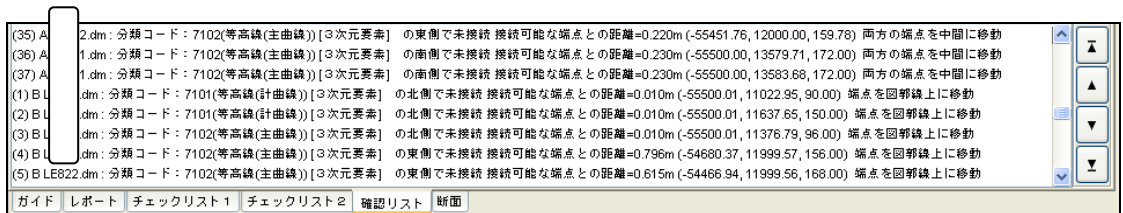
リストアップ

上記の処理が可能な端点をそれぞれチェックリストに表示します。



端点を移動する

ABCの順に処理を行います。確認リストには移動した組をリストアップしますので、リストアップ時の行数より少なくなります。



端点間の最大距離(m)

両端点間の最大距離を指定します。この距離以下の端点の組が対象になります。

図郭線からの最大距離(m)

上記「B」と「C」の処理で、端点が図郭線から離れている場合、端点と図郭線との距離がこの値より小さい端点の対象となります。

DMの線(E2)の端点は図郭線上か図郭内にあることを前提にしています。図郭線外に出ているケースはメニュー「図郭チェック」の「図郭外」で検出し、先に修正しておいてください。